（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社　楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム　宇賀の里　楽舎		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地10		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

宇賀の里では、今年は、「待って頂くのではなく、常に一緒に家事支援」という支援目標を立てた。利用者の（～したい）を大切にし、得意な事ややりたいことを、日々の生活の中に取り入れて、活き活きとした生活を送って頂いている。中に閉じこもっていない様に天気の良い日には、どんどん外出行事もおこなっている。また、地域の皆様との交流も頻回に行っている。御家族様の御面会も、毎週のように来て下さる方、ここに入って笑顔が良く出るようになったと喜んで下さる方もいらっしゃる。今後も日頃から、御家族と利用者が共に過ごせる機会を多くもって頂けるよう働きかけ、支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は木造瓦葺き平屋建ての外観で、内部は各所に木材を多く用いており、落ち着いてゆったりとした生活を送ることができるといった印象を受ける。窓は二重ガラスであり、設置者の利用者に心地良い生活を提供したいという思いが窺える。介護計画は利用者の「生活機能」に視点が置かれており、利用者は自分たちができることや望むことを無理なく行っており、自由で安らかな時間が感じられた。何よりも利用者の送ってきた生活の継続性を重視し、身体的自立、精神的自立を目指したケア提ね供がなされており、調査当日の利用者の笑顔や穏やかな表情からも、利用者を第一に考え支援がなされていることが確認できた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、毎月スタッフが目標を決め、スタッフ間でもその理念・目標を共有して実践している。	理念に基づいた月毎の目標を決め、共有が図られ実践に生かされている。業務にも気遣いが見られ、外部との絆を大切にした支援が提供されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には収穫した野菜を持って来て頂いたり、地域の小学生と交流したり、近くの中学生のボランティアを受け入れたりして日常的に交流できる様にしている。	地域の行事にも積極的に参加しており、ボランティアを含む地域との交流も日常的。 地域に対して認知症の啓発の場ともなっており、地域とのつながりは評価に値する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉フェスティバル等行事での交流や運営推進会議等の場で日頃、楽舎でどういった支援をしているのか実際に見て、参加してもらって認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者様やそのご家族様、地域のボランティアの方にも参加して頂いている。そこで皆様の希望・要望など、率直に意見を出してもらい、今後の支援に生かすようにしている。	ビデオを用いての事業報告も行なわれており、地域との連携や利用者の状況に応じた支援のあり方などについて、活発な意見交換なされている。家族の意見により年に1回程度土日に開催していることは評価できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会があれば事業所の実情や取り組みを伝え、思っている事や解らない事など、お互いに意見交換し、協力関係を築いている。	行政に対しては都度連絡、相談を行うことができており、日々の相談や運営推進会議などから、良好な協力関係がつくられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを周知徹底し、内部研修を行うなどして、スタッフも身体拘束をしないケア提供への意識を高く持って支援をしている。	マニュアルも整備されており、研修会も開催され、身体拘束をしないケア提供への意識は高く、施錠も含めて、止むを得ない場合を除き、身体拘束は行わない方向でのケア提供がなされており現在は事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止についての研修を行い、周知徹底し、日頃から職員同士注意喚起し、支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については外部研修等あれば積極的に参加し、成年後見制度については内部研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、担当スタッフが利用者、家族から丁寧に聞き取りを行い、十分な説明を行い理解・納得して頂き、少しでも不安が解消されるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素より利用者様やご家族様が何でも気軽に話せる雰囲気作りを心掛け、運営推進会議等で話す機会ももち、日頃のケアに反映させている。	ホーム便りの送付や手紙を書いて日々の様子を知らせおり、行事や運営推進会議には家族の参加も多い。家族から出された意見は検討し日頃の支援へ生かす取り組みが構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時、管理者や施設長、代表者に意見・要望を挙げたり、個別に施設長や代表者へ意見・提案をする機会を設け、反映させている。	全職員が目標を決め、管理者と職員で意見交換を行っている。スタッフ間の関係は良好で気軽に相談出来る体制があるように窺えた。事業所一丸となって情報の共有化と能力・意欲向上に努め、事業の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課があり、代表者とスタッフの個別の面談の機会を持ち、個人の努力や実績、勤務状況等を評価する場を設け、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加し、月に一度内部研修を開いている。また、職員同士協力し、働きながら資格が取れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと意見交換をし、質の向上を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との雑談の中にも事実が隠されている事があり、カルテの記録に残して、スタッフ同士で確認申し送り時検討して、利用者様が安心して生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族様が困っている事、不安な事をいつでも遠慮なく相談できる環境作り雰囲気作りを行って、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、看護師、ケアマネジャーなどと相談し、家族様の思い本人の状態を見極め的確な判断対応をし、支援している。必要に応じて医療機関に繋げるなどの対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事盛り付け、食器拭き、掃除などの出来る事を見極めて、自分の役割として頂けるように支援して、スタッフはあまり手を出さず見守り、サポートしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を出して様子をお伝えし、行事の予定がある時は、参加して頂けるように案内している。フェスティバルありがとう会は参加も多く、家族との絆を深く感じる行事であり、毎年多くの感動を呼んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出深い、近くに住んでいた所にドライブに出かけたり、電話がしたいとの要望があればいつでも電話が出来るようになっている。繋がりを持って関係が途切れない友好的な関係を保っている。	馴染みの場所や店、希望する場所に外出する支援がなされており、利用者にとってのなじみの人や場所との関係継続は積極的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが起きないように話を良く聞いてトラブル回避している。また、一人孤立されない様に声かけコミュニケーションをとり長所を引き出す支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、亡くなられた時、楽舎で楽しかった想い出、スタッフのメッセージをアルバムに収め、ご家族様にお渡ししている。葬儀の時は都合の付くスタッフは参列させて頂いている。他の施設に移られた際も時々面会に行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に少しでも時間を作り話を聞くように努め、些細なことでも記録に残している。スタッフで話し合い、ケアプランに反映させて、スタッフも共有し支援している。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、利用者主体とし、家族から意見を聞いたり、日々の生活から意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	「望む生活」「あるべき人生」の実現に向け、常に利用者に寄り添い、様々なスキルで利用者の思いや意向の把握に努め、利用者本位の生活の実現とその継続に向けてのケア提供を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	楽舎書式に生活歴、好みなど本人御家族様にお伺いし、記入している。新たな情報が出てくれば随時記録し、スタッフで検討し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりご自分の思いのまま過ごして頂いている。強制はしない。身体状況等申し送り時に報告し、送りノートにも記入し、スタッフは毎日確認しサインしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に本人、御家族様からの話を聞き、入居後の支援に活かしている。その後もご本人、ご家族様の要望を聞きケアプランに組み込んでいる。気がついた事があれば検討会議にてスタッフ同士で検討し、新たな計画を立てている。	利用者、家族と話し合い、利用者本人の思いや暮らし方を大切にしたケアプランが作成され:ケア生かされている。カンファレンスに家族参加が得られない場合は、記録を郵送するなどし意見調整がなされ、チーム一丸となった介護計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	楽舎独自の毎日の記録に評価できるようになっており、今後の支援の在り方が一目でわかるようになっているので気が付いたらすぐに話し合いの場を作り反映できる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様との外出外泊がいつでも自由に行えるようになっている。御家族様が楽舎で泊まれる設備も整っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校行事の見学に出掛けたり、季節ごとの行事には近隣の方々にも参加して頂いて地域との交流を図り、島根銀行さんへ作品を飾り、外部の方に見て頂く事でやりがいをもって制作に参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回協力医の往診があり、気にかかる点があれば些細な事でも伝えるようにしている。利用前からのかかりつけ医については、希望に応じて継続して受診が出来る様御家族様等と協力し、通院介助を行っている。	利用前からの掛かりつけ医での医療が受けられるよう、家族等と共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや、日々の利用者様との関わりの中で、異変の早期発見に努めている。変化があればすぐに看護師へ連絡し、医師へ繋ぐか、介護職で対応できるか等、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、楽舎スタッフ、医師、御家族を交えてカンファレンスをしっかり行う。楽舎でどのような支援が行えるのか、医療関係者と情報を交換し、御家族様にも支援の内容を納得して頂けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、医師、スタッフで話し合いの場をもち、状態が変われば都度その支援方法を決定するようにしている。また、その内容を全スタッフが共有しご本人の意思を尊重したケアが行えるようにしている。	本人や家族の思いや意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した終末が迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119シートを作成し、利用者一人一人の現在の状態が誰でもすぐにわかるようにしている。内部研修には、特変時の対応方法の確認や、AEDを使った内容も取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や、自然災害を想定した避難訓練を年2回行い、全スタッフが速やかに避難誘導や連絡が行えるようにしている。避難時には利用者様にネームプレートをつけて頂きスタッフ以外にも、見守りの注意点が伝わりやすい様にしている。	避難訓練・消火訓練を利用者も交え行っている。運営推進会議を通して地域への協力依頼もなされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様を敬う気持ちを持ち、落ち着いた丁寧な対応を心掛けている。何かする際には、無理強いはせず、ご本人の気持ちを優先している。オムツ交換時は、カーテンや衝立を使用し、どこからも見えないようにするなどの配慮をしている。	尊厳の重視に関しては、研修や会議等で全職員への徹底が図られている。居室に入る際のノックや声がけなど、日常の様々な介助場面でも配慮が伺えた。個人情報保護に関する対応も的確である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を取り入れた食事を一緒に作る。レクレーションの内容や行事のアイディアを一緒に考える。日常生活の中で利用者様に選択して頂き、利用者様の声を引き出す支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄等急ぎの場合以外は、利用者様の思い思いに過ごして頂いている。手持無沙汰な様子があれば、個人の好みの手芸や家事支援等へお誘いし、張りのある生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、移動美容車が来るので、希望をうかがいカットやカラーリング等をして頂いている。お化粧は毎日きちんとされる方もいらっしゃる。されない方は毎朝の整容や、入浴時の爪のチェック、顔剃りを行い気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食を食べておられる方も、柔らかいものに限ってはつぶしたり小さめに切ってそのままの味を楽しんで頂けるようにしている。食事の準備や片付けは、スタッフと一緒に会話をしながら、楽しんで参加して頂けるように支援している。	食事は炊事、準備、片付けも利用者と一緒に行なっており、食事は職員も利用者と同テーブルで食べており、調査当日は誕生日会でもあり賑やかで楽しい食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方は、低カロリーのおやつを提供し、糖分の摂りすぎにならない様にしている。利用者様の食事の適量を周知し、盛り付けを行っている。食事量、水分量はカルテに記入し、一目でわかるようにしている。肉の嫌いな方には別メニューを提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後必ず行っている。自立の方にもお声を掛けさせて頂いている。残存能力を活かす為に、一度は利用者様に歯を磨いて頂き、仕上げをスタッフがするようにしている。義歯は毎晩洗浄剤につけ、清潔にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後お茶前後等、定時にお声掛けし、その方のタイミングでトイレ誘導をしている。毎日排便の確認をし、チェック表に記入している。	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握したうえで、無理のないトイレ誘導や水分摂取を促している。季節や昼夜により紙パンツやパット、下着を使い分ける等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って頂く様にしている。毎朝体操・歩け歩け運動等をし、食事もバランス良く食べて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人ずつゆっくり入浴して頂く様にしている。	入浴に関しては、夜間の入浴や毎日の入浴など利用者の希望沿った形で支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかり眠って頂けるように日中はなるべく起きて活動して頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を飲んで頂く時は、本人様の目の前で名前日付を声を出し確認して服薬して頂いている。薬の変更等あった時は申し送りをしてスタッフ皆で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好きな事・得意な事をお聞きして、日常生活の中で出来る事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をしたりしている。日常会話の中で行きたい場所を聞き出し、ドライブや外食に出掛けている。	帰宅や墓参り、散髪、買い物、外食、花見等外出に向けた機会を多く持つよう支援がなされている。外出に関しては積極的な取り組みがなされており評価できる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物があれば出来る限り利用者本人も一緒に買い物に行き、希望される物を買って頂くように支援している。預り金の中から予算を決め、その予算の中で買い物をして頂きお金の大切さをわかって頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話の要望があればすぐに対応している。お手紙を書かれた時は一緒に投函に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには毎月季節に合わせた作品を利用者様と作り、飾っている。	懐かしさを感じさせる家具や小物、季節の花や絵が飾られ、明るさも適度であり、清潔で居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にソファーが設置しており、皆さんで座って談笑したり、休憩されている。一人の利用者様が孤立しないよう声掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が御自宅で使い慣れた家具や馴染みのある物を御家族様に持ってきて頂き、使用して頂いている。	利用者が自宅で使い慣れた家具や大事な物を持ち込んで頂き、居室が落ち着ける生活の場となるよう支援がなされている。手作りの名札がかけられ、畳やカーペットを敷いたり、利用者個々の希望に沿った居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋に一日の流れのわかる大きな時間割表や、大きなカレンダーを張り、共有スペースであるトイレ・お風呂へは大きくわかりやすい張り紙で誘導している。		